

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104075		
法人名	サンキ・ウエルビ株式会社		
事業所名	サンキ・ウエルビ グループホーム下関		
所在地	下関市生野町1丁目4-10-2		
自己評価作成日	平成25年3月15日	評価結果市町受理日	平成25年9月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年4月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サンキウエルビグループホーム下関は4月で開設1年となります。入居者様のお一人お一人の生活を尊重し、自由でゆったりと生活して頂ける環境をめざしています。家庭的な雰囲気と居心地の良い環境で皆様と生活を共に過ごしたいと思います。特に月間行事やレクリエーションに重点を置き、張りのある生活の場を提供する事を心がけています。食事面も身体にやさしい医療関連の専門配食のものを選択、安全重視も取り入れています。また日曜日には「おやつ」など利用者と分担し作っています。歳時(祭事)・お誕生日会などには、お赤飯やお寿司など調理皆様に大変喜ばれています。同建物内の「居宅」「訪問介護」「小規模多機能」の職員と介護についての知識を共有しながら質の向上に努めています。開設1年の未熟な面を認めつつ、より良い環境作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の日々の暮らしが張り合いや喜びのあるものになるように、カラオケ、ことわざ遊び、百人一首、お手玉、洗濯物たたみ、食器洗い、おやつづくりなど、活躍できる場面をたくさんつくり、利用者の日々の暮らしが張り合いや喜びのあるものになるように、楽しみごとや気分転換の支援に取り組まれています。家族に運営推進会議の案内状を送る時に意見や要望を聞く意見書を同封する他、法人の家族アンケートや面会時等で意見、要望、などを聞く機会を設けられ、意見等の検討を行い、運営推進会議時や個別に返答、対応されるなどをして、家族との協力関係づくりに前向きに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「福祉事業を通じて地域社会に貢献する」を会社理念とし、ホーム理念は「私たちの理念」として「①信頼されること②目標を持つこと③のんびり暮らすこと④責任を持つこと⑤絆を大切にすること」を目標に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、職員間で話し合ってつくり、事業所に掲示する他、朝礼時に唱和し、共有して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週地域の方が「オカリナ」の演奏に取り組んで下さり、楽しく歌ったり聞いたりしています。日常的ではないが、時折イベントの開催で演芸会なども開催している。	自治会に加入し、地域の生野神社の風鎮祭や節分祭に出かけている。事業所の夏まつりでは子ども会の太鼓演奏や保護者の参加がある他、感謝祭で運営推進会議のメンバーや地域の人と交流している。オカリナ演奏、自衛隊のエイサー踊り、高校の大正琴部等のボランティアの来訪、近隣の理容院や食堂の利用など、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室の開催、施設の見学は積極的に受け入れている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	今回の評価を目標指針に具体的に取り組んでいきたい。	評価の意義を説明し、自己評価表を回覧し、記入するように取り組んでいるが、職員は項目の理解が十分ではなく、評価の意義の理解と活用に至っていない。	・評価の意義の理解と全職員による取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容・議事録は常時閲覧できるよう掲示している。職員にも議事録の回覧などで、意識付けしている。	自治会長、民生委員、市会議員、ボランティア(大学研修生)、地域包括支援センター、利用者、家族、職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。行事予定、現状報告、外部評価の取り組み等について報告し、意見交換している。事業所での生活状況を教えて欲しいという要望があり、廊下等に行事写真を掲示する他、個別に説明するなど、意見をサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加、運営などの問題点や不明な点を介護保険課へ相談・指導を得ている。	担当課には申請や報告等で出向く他、電話で相談や情報交換をしている。地域包括支援センターとは運営推進会議の他、出向いたり、電話などで相談して助言を得たり、情報交換するなど協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体でのコンプライアンスでもあり「身体拘束なし」を基本理念としている。研修・勉強会などでも共有している。	内部研修を実施し、職員は理解して抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。日中は玄関に施錠はせず、安全に過ごせるよう支援している。スピーチロックについては管理者やリーダーが注意する他、職員間でも話し合い、ケアの質の向上に努めている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の必修項目でも有り常に意識している。研修・勉強会などで全員で共有している。また日頃より虐待の有無の確認を実施している。虐待と思われるものは注意している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現行そのような状況の方がおられないが、研修会での説明は実施している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事前に説明、署名捺印を頂き契約入居の手順となる。社内重要項目でもあり、利用者家族に説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・ヒヤリハットなど適切に対応センター会議にて全員に周知している。同時に会社への報告解決改善をしている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。運営推進会議時や面会時、電話、年1回の法人のアンケートの他、運営推進会議の案内状に意見書を同封して、意見や要望を聞いている。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で苦情・意見は報告、全員で共有している。会社にも同時報告し早期解決、改善に取り組んでいる。	管理者やリーダーは、毎月の職員会議や朝礼時に意見や提案を聞く機会を設けている。他、日常業務の中でも聞いている。海響館見学等の企画の提案を取り入れている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適時にヒヤリング(個人面談を含む)し、現状を把握し周辺環境を含め職場環境の適正化に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のスキル向上の為、研修・講習への参加を積極的にお願いしている。「実践者研修」は積極的に推進している。開設より実践者研修4名受講している。	外部研修は情報を伝え、段階に応じ勤務の一環として参加の機会を提供している。受講者は、復命報告をして、資料を閲覧している。内部研修は月1回、プライバシー、緊急時の対応などの研修を実施している。新人職員は管理者が1週間指導した後、リーダーや先輩職員が日々の業務の中で指導し、介護技術や知識を学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・計画作成担当者は同業者の会には参加その都度職員に報告している。見学会にも機会があれば参加している。開設より他施設見学5名参加。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際して得た情報をもとに、ご本人の生活に活かせるよう心がけている。安心できる環境を注意深く見守り声掛け、初期の対応に心がけている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の一番困っている事をしっかり傾聴「出来る事」への対応など、価値観を共有し、不安の解決に努力するよう家族とのコミュニケーションを築くようつとめている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの生活に馴染んで頂く為の支援と家族が安心して頂ける支援の対応、グループホームとして出来る事、強制ではなく共生する支援・援助を理解して頂く。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「暮らしの場」であることの認識、職員との生活が自然な感覚でいられる場であること。自然な環境を目標とし、努める。「出来ることの働きかけ」「共に暮らす」意識を大切にしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡は積極的にしよう努めている。常に家族と共有できる気持ちでいる事を大切に心がけている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由(時間も出来る限り柔軟に対応)・外出の対応も家族との時間を大切にとの思いから積極的に支援している。外出困難な方は、ホームへの訪問をお願いしている。	友人や知人、親戚、近所の協会のシスターの来訪がある他、家族の協力を得て、美容院の利用、外出、外食、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性もあり、配慮し隣人として良好な関係が築けるよう支援している。レクリエーションを通じて楽しい時間を過ごしていただけるよう席順などに配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の相談は家族の思いを尊重できる限りの支援と配慮につとめる。退去後のサービスが確保される事が何より大切。そうしてスタンスで本人、家族のケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前調査による情報で支援開始し、ホームの生活に慣れるよう努めている。本人、家族の意向を大切に進めている。カンファレンスでの意見交換をし解決に努めている。	入居時のアセスメントの他、日々の関わりの中での把握に努めているが、思いや意向の把握は十分とは言えない。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報を基本に、生活環境・服薬状況などを参考に把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前の情報を基本に、日々の変化を職員と共有し把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の生活を参考に入居者の担当者を決めている。そのスタッフを中心に課題の解決をカンファレンス等によって実施し、また状況、達成等を確認している。	計画作成担当者、利用者の担当職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、利用者や家族等の意見や要望を参考にして介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直している。	・モニタリング様式の工夫
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を記録し、発言は「本人の言葉」で具体的に記録、その後の支援に活かせるよう努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の散歩、行事の参加等出来る限り柔軟に対応するよう努めている。季節の行事などを大切に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への買い物、散歩、ボランティアによる交流など企画するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望でかかりつけ医を決めている。受診の支援、協力連携医の受診時の情報提供など積極的に連携、協力している。	入居前からのかかりつけ医や他科受診は家族の協力を得て支援している。状態の変化があれば看護師が家族に連絡をし、受診結果等の情報を共有している。協力医療機関をかかりつけ医としている場合は事業所が受診の支援をする他、月2回の往診や緊急時対応があるなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェック等、体調管理上問題がある場合に対応できるよう連携している。医師への連絡や相談は専門的な立場で対応をお願いしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	専門的看護など相談し、指導、方法など対応をお願いしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の方は現在なし。今後の課題としたい。	事業所でできる重度化や終末期の対応について、契約時に家族に説明している。重度化した場合は、家族やかかりつけ医、関係者等と意向を確認しながら、対応方針の共有を図っていくこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	「ヒヤリハット」「事故報告書」を参考に会議で共有し、事故対策防止に努めている。勉強会研修も実施している。	ヒヤリハット・事故報告書に記録し、改善策を職員で話し合い、朝礼時に説明し、月1回の職員会議で確認して、共有し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で、消防署の指導を得て救急救命法を1回実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアル・対策は研修緊急連絡網の連絡実施などに努めている。避難経路・場所の確認図の掲示し訓練を実施している。地域との協力体制は今後の課題である。	消防署の指導で年2回昼夜想定避難訓練や通報訓練、消火訓練を利用者と一緒にやっている。事業所独自の訓練で避難場所の確認をしている。地域との協力体制について運営推進会議で話し合っているが、築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重に心がけているが言葉かけの方法に努力と普段使いの言葉の使用にやや課題を感じる。	研修を実施し、プライバシー確保について職員は理解して、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いや守秘義務について、徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう配慮、何事にも自己決定を優先にしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の気持ちを尊重し、何事にも本人の意向を大切にしている。レクリエーションや外出行事なども無理やりでなく、その方のペースにて決定・支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活時間に合わせた身だしなみに配慮している。整髪などもご希望にあわせ手配している。介助必要な方も着替えの選択はご本人にして頂き、不可能な方は気分転換できるようにコーディネートしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員主導で準備、お絞り用意など周辺準備・後片付けなど手伝って頂く。刻み・トロミ・減塩など体調にあわせ配膳し、その方のペースでの食事に心がけている。祝日・誕生日などは別メニューで対応し、皆さんに楽しんでいただいている。	三食とも法人からの配食を利用している。事業所で汁物など一品はつくる他、祝日、誕生日には利用者に好みを聞いて、食事づくりをしている。利用者は、下ごしらえ、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭きなどを職員と一緒にしている。季節の行事食やおやつづくり(ゼリー、ホットケーキ、芋餅など)の他、出前や家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療関係のメニューで栄養のバランスに心がけ食事量・水分のチェックをする。共に個々に対応、注意している。特に水分量の少ない方は飲み物も好適なものにするなどの対応をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを個々にお問い合わせ・支援している。義歯の方のアフターケア、ポリデント消毒などの定期的な対応も支援している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりのパターンを考慮、尊厳に配慮している。夜間帯も個別に声掛けし、夜間失禁の防止に努めている。	健康チェック表、排泄チェック表で一人ひとりのパターンや習慣を把握し、声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘者には適時な運動の他、水分補給、ヨーグルト・牛乳などを提供、便秘時の服薬量もかかりつけ医に相談調整している。本人及び外的確認の排便チェックは実施している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めているが本人の意思を尊重し、日程・時間も変更し実施している。心地よい入浴をさせていただいている。	9時30分から11時30分と13時30分から15時頃までの間に、希望をすれば毎日入浴可能で、ゆっくりと一人ひとりに合わせた入浴の支援をしている。入浴したくない人には声かけの工夫や職員の交代、日時を代えるなどの対応をしている。状態によって清拭、シャワー浴、足浴の対応をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適時な休息、体調にあわせ好みの場所で実施、夜間帯も適時に声掛けするが寝つけない時は強制することなく介助支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は処方箋による。本人の体調変化時は医師に連絡し支持を得、対応している。服薬の調整、変更は申し送り職員間で共有している。薬の勉強会を適時開催している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居に若干差もあるが皆さん生活に慣れてこられた。レクリエーションの中に個々の楽しみをみつけられる方もあり、今後の課題として個々の楽しみの支援をしたい。	ラジオ体操、口腔体操、カラオケ、DVD鑑賞、ことわざ遊び、ダーツ、かるた、オカリナ演奏、百人一首、貼り絵、四字熟語、間違い探し、お手玉、折り紙、洗濯物たたみ、洗濯物干し、下膳、食器洗い、季節の行事(雛祭り、七夕、節分、クリスマスなど)、七夕飾り作り、ちぎり絵、ケーキ作り、おやつ作りなど、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩は本人の状況にて実施。外出行事は月ごとに決め実施している。みかん狩り・紅葉見学・初詣などに出掛けている。	スーパーへの買い物、散歩、花見(桜、つつじ、チューリップ、紅葉狩り)、初詣、生野神社の豆まき、ドライブでみかん狩り、海を見に行く他、家族の協力を得て外食や墓参りなど、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は原則持ち込まないことになっている。家族の方針で持たれている方もいる。金銭については原則支援していない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ本人の希望があれば、支援している。家族の方には手紙も喜ばれることをお伝えしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具の持ち込みは自由、特に制限はなし(火気厳禁)お掃除などは支援している。リビングの使用も自由で制限なし、安全の確保を支援しながらご利用いただいている。	陽射しがよく入るように工夫された共用空間は明るく、行事や食事の状況により配置換えのできる食卓や畳の間、テレビの前の大きなソファなどが配置しており、利用者の居場所となっている。台所からは御飯の炊ける匂いや料理の匂いを感じることができる。廊下には行事に参加した利用者の写真や季節の飾り物が飾ってある他、加湿器が置いてあり、温度、換気にも配慮している。洗面台や浴室、トイレは手摺りなどの安全面の配慮があり、利用者が、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング・和室いずれも自由に過ごせるようテーブル・椅子・ソファの配置をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人専用であり家具装飾品の持ち込みも特に制限はしていない。お掃除は職員の支援のもと実施。エアコンも設置、空調にも配慮している。	ラジオ、テレビ、仏壇、柱時計、タンス、衣装掛け、整理ダンス、衣装ケース、ぬいぐるみ、造花、折り紙の作品、家族の写真、本など使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立を目標にし出来る事は自分での方針を基調とし個別に対応、文字の識別の困難な方には理解できるように「かな」「ふりがな」などで支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名： サンキ・ウエルビーグループホーム下関

作成日： 平成 25年 9月 10日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議参加者の顔ぶれが大体同じである。広く参加を呼びかけたらよいのではとのアドバイス有り。利用者家族の参加も同じ顔ぶれとなっている。	ボランティアや、地域住民など広く参加を呼び掛けたい。毎回、一人は新しい方に参加いただきGHの存在意義をアピールしたい。	地域包括センター担当の方に無理を言って、土曜日開催を予定した。新メンバー参加を期待する。	12ヶ月
2	24	利用者一人ひとりの思いや、意向の把握に努めているが、十分に対応できていない。	利用者ごと担当職員を決め、思いの把握に努める。記録様式を工夫し、スタッフ全員意向の把握をし、計画に反映させる。	担当職員は、利用者・家族との関係を密にする。面会時、近況報告はもちろん、要望、希望の把握に努める。面会が困難な家族には、電話・手紙などで連絡を取り、随時、記録に残していく。	3ヶ月
3	35	開設時に比べると、利用者のADL低下が見られ、ヒヤリハット、事故が増えている。同じ利用者が転倒を繰り返している。事故への対応に職員間バラつきがある。	同利用者で、同事故を起こさない。全職員が危険予測でき、落ち着いて対処できる。	再発防止策を皆で検討し、決定事項を周知徹底する。危険予測をした行動ができる様、または実践力を身につけるための研修を実施する。	3ヶ月
4	36	災害対策について、2回/年の避難訓練、通報訓練、緊急呼集網点検を実施しているが、地域との防災訓練等が実施できていない。	年一回は地域ぐるみの防災訓練に参加する。	運営推進会議の席において、自治体の防災訓練計画を確認。参加させてもらえるよう調整する。	6ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。